

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム れんげそう
(ユニット名)	1 ユニット
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県南さつま市金峰町尾下390番地
記入者名 (管理者)	湯元 正美
記入日	平成 21 年 12 月 25 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
<input type="checkbox"/> 2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	毎日全員で唱和することで、日々新たな気持ちで取り組めるよう努めている。
<input type="checkbox"/> 3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
<input type="checkbox"/> 5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	年々高齢化して外に出かけることが困難になってきているが、少しずつでも出かけて交流できるようにしたい。できるだけ多くの地域の方々に来ていただくことも考えてはいるが、利用者様の混雑が予想され少人数でお願いしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設見学や電話等で認知症の相談、介護保険の利用方法などの相談を受けている。	○	公民館長さんや民生員さんとの交流を細かく行い、地域住民の方々の為に施設を利用できる方向へと考えて生きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが、自己評価表を記入する作業に加わり、何が不足し、何が必要であるか、実感している。実際は行えていることでも、文章に表すことがいかに難しいか、また現場の悩みなどもくみ取れる工夫につながる事を期待している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で話し合われた内容は、必ず朝礼等でスタッフに伝え、特に家族から出された意見は、すぐに伝え生活の中に取り入れるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日ごろから電話やメール、直接出向いて分からない事など相談に伺っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前事例があり、相談を行った。これからもご本人の為に必要があると思えた場合は相談をしていきたい。	○	職員向けに研修といった形で個人の生活する上での人としての権利などについて勉強を行って生きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マナー研修などで、言葉による虐待について学ぶ機会を得た。改めてとても身近にあり、自分達も気がつかずに行ってしまう可能性がある。と実感でき、今後のケアに生かすように努めている。	○	今後も職員会議の場で研修の場を設けて自己研磨に努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	今後ますます重度かして対応に困ることが予想されるが、ユニットごとにこだわることなく、柔軟な姿勢で対応していきたい。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	両ユニットを把握し、どちらも介護が出来るようにスタッフ研修をすすめたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マナー研修を通し、職員会議などで逐一研修の場を作っている。南薩地域で行われた認知高齢者の地域で取り組む介護と題した研修にスタッフが2名参加した。その内容はレポート提出し回覧する事で、周知させた。	○ 今後も地区で行われる講習会や研修に積極的に参加させたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日頃から待機者状況や資料作成など連絡を取り合い、意見交換を行っている。相互訪問までは至っていない。	○ なかなか実現できないが、相互交流の機会を作って、職員の交流も行っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	なかなか出来ていない状況であるが、今後もBS方などを駆使し、ストレスが過剰にならないように努めていく。	○ 職員間の親睦会なども定期的に行って生きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得の案内など配布したり、機関紙を購入して、各自が知識習得ができるようにしている。	○ 今後も各自向上心を持って働けるよう取り組んでいきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に寄り添った介護に努めその方の表情、仕草などに気をつけ、意向をくみ取る工夫を行っている。又スタッフ間での申し送りなどで、連携を図っています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご相談のお電話があれば必ず見学をお誘いし、その時できれば詳しい事をお伺いする機会を設けている。話しの都合で何らかの助言が必要な場合は、市の包括支援事業などを照会している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や医療機関、今まで利用していたサービス機関等とも連絡をとり、適切なサービスが提供できるようアドバイスしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族の協力を頂きながら、まず一緒に施設見学の形をとり、時間を掛け本人に納得していただけるように支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	寄り添っているんなお話を伺い、共感し、そこからその方の人生を垣間見、お手伝い出来る部分を発見していく。また私たちの生き方の模範になりうる事柄を認め、本人にその事を伝えありがとうございますと言葉にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族を巻き込んで支援する。ご本人にとってやはり家族以上のものは無いので、一緒に泣いたり笑ったり今日一日との思いで接している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族との連携を大切に些細な事柄もお伝えし、ご家族から信頼される関係をきづいている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた場所が本人にとって心地よいものだと思いますので、入居前に利用していたご本人に合った理美容や病院など、馴染みの関係が維持出来るように、支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの個性を把握し、トラブルを未然に防ぐ努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたら随時お見舞いに行ったり、その後の相談にのったりしている。	○	地域の施設としてお付き合いは大切であると実感しており、近況伺いなどこまめな対応をとっていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や、スタッフの気付きを通し、本人の意向の把握ができるよう努めている。また家族へも意向を伺い、これまでの生活から察して、思いを共有できるよう援助している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや、面会時などに情報収集を行い、本人にとって何を重要視しているか等聞き取りを行い情報収集に心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人や家族から情報をよく聞き、またスタッフ間の気付きを通し一人一人の生活リズムを把握して、その人らしい生活ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向、主治医の意見、スタッフの気づきなど意見を総合し意向を反映した介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて定期的に見直しは無論のこと、急変時や退院等状況の変化に合わせて随時見直しも行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りノートを活用し、より本人のニーズに沿った介護計画の作成に取り組んでいる。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	年々重度化して入院のリスクが高くなっているが、出来るだけ家族の負担を軽減し、ご本人の生活環境の変化が最小限になるように努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に民生委員、ご家族、消防署、駐在所のおまわりさんなどいろいろな方に参加して頂き、意見交換に努めている。また毎年、小学生の授業の一環として施設内での課外授業を行ったり、運動会などを見学にこちらから出かけたりと近隣の関係を上手く利用できている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	容姿について特に散髪など希望があれば、訪問の理美容を利用して頂いたり、又行きつけの美容院や散髪屋さんを利用できるように、希望に沿った支援を行っている。	○	ADL面での下肢筋力低下予防の一環として、リハビリ施設の利用も視野に入れていこうと企画中である。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席して、地域における高齢者保護対応についてアドバイスもらったことはあるが、その後は直接介護保険課と話し合っているので協働する場がない。	○	包括の介護支援専門員との交流をもち地域により密着した施設を目差して行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時主治医の確認を行い、希望に応じたかかりつけ医の医療が受けられるよう援助している。	○	歯科・耳鼻科・皮膚科といった専門医院とも援助の関係を結び、より充実した介護を目差して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の状態に応じて専門医を受診して、日頃の生活にアドバイスをもらったり、内服薬の継続が出来るよう援助している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同一法人のクリニックと医療連携体制により、週三回の健康管理や24時間連絡体制をとっている、また独自に看護職員も配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に対応できるようにしている。看護職員がいない時でも、病院へ連絡したらすぐ的確な指示をもらい、確実な対応ができるようにしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は日常生活状況を詳しく伝えて、早期退院ができるよう協力している。また本人の身体状況に応じてスタッフがお見舞いに行き、退院後の相談に応じている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常日頃から重度化した場合の意向をお聞きしている。また本人家族と十分な話し合いを行い、状態変化に伴って援助できるようにしている。	○	ターミナルケアー尊厳ある生についての勉強会を持ち、ご家族と協力のもと、その人らしい生を全う出来るよう介護の質を上げて行きたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	最終看取りまで行う機会があり、事業所でできることできないことを把握して、状態変化に応じて、的確に対応できるようにしている。必要時にはご家族と契約を結び、意向に沿ったサービスを提示している。	○	年々重度化し、ほとんどの家族が最終看取りまで希望しており、希望に添えるよう準備していきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院時や他の施設に移るときは情報提供書を作成し、不安が少しでも少なくなるよう取り組んでいる。またなじみのスタッフが面会に行き、住環境が変化する事への不安軽減に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関する職員の意識向上を図る為、マナー研修を月1回計8回を通し、まずリーダーから手本となり、言葉使いから礼儀作法まで徹底した職員教育で利用者様の支援を考えている。	○ 引き続き定例会などで職員の意識向上を図るように努めたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりの能力に合わせて声掛けを行っている。又複数の選択肢を提案し、利用者一人ひとりが自分で決める場面を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者の体調や気分に合わせて、その日、その時の利用者様の気持ちを尊重している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合った衣類をご家族に持って来て頂き衣類交換を行っている。その日の気温や、本人の意向に即した衣服を着ていただいている。また理美容に関しては、行きつけの美容院や理髪店を利用していただき、そのほかの方は訪問理容師さんに来ていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は事前に好みを把握しており、利用者「この材料で何がいいですか」などお聞きしながら、希望に添えるようにしている。食材の下ごしらえやとりわけ、片付けなど、その方の能力に合わせて参加できるようにしている。職員も一緒に同じ食事を摂りながら会話も弾み、楽しく食事が出来ている。	○ 小食の方には、10時15時などに分けて食事の代用として果物など提供している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好を把握して、主治医に相談しながらなるべく本人の希望に沿った援助ができるようにしている。	○ どうしても口が寂しく飴が好きな方が居て、ご家族に協力頂きながら、いつでも希望時に食べられるように、個別対応をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを記録、把握し、できるだけトイレが利用できるようにし、また本人の希望や能力に合わせた排泄用品を使用している。失敗しても羞恥心に配慮した声かけ対応をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や体調に合わせて行い、嫌がる方は無理強いつけず時間をずらしたり、困難なときは清拭や足浴など行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は散歩や会話、家事への参加など出来るだけ活動できるようにしている。また本人の希望や体調に合わせて、居室や、ソファ、畳の上などで休息をとれるようにしている。	○	穏やかに過ごせる快適空間を考え、ソファの位置など模様替えを行っている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	高齢化して徐々に重度化してきたが、その方のできる事、得意な事などを見極め、洗濯物たたみや掃除、音楽を楽しむなど各自の能力が発揮できるようにしている。また季節ごとにドライブを行い、季節を肌で感じて気晴らしができるようにしている。	○	体調に合わせて手足の運動や脳の働きを促すといわれている口開け運動等唄など・・努めて行うようにしている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際お金を使う機会は少ないが、各自の能力に応じてお金を持つ安心感を大切にして、管理できない方はこちらで管理して、個人別に台帳を作りチェックしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家に帰りたくなったり、車の動きが気になって外に出たい時など、一緒に出て散歩を楽しんでいる。天気の良い日は外のベンチでおしゃべりしながらお茶会を行っている。	○	重度化して自力で動けない方が多くなっているが、家族の援助も頂きながら、外出の機会が少しでも多くなるようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お墓参りや買い物など、家族の協力をもらいながら実現できるようにしている。 施設で買い物日は出来るだけ声掛けをし、一緒に買い物にお連れしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやり取りは、他の方に配慮して各居室でできるようにしている。また手紙や贈り物などがあった時は直ぐにお礼の電話やお手紙を出して、親しい関係が続けられるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に決まっておらず、自由に面会していただいている。また他の方とは少し離れた場所を用意して、お茶と一緒に飲みながら他の利用者に遠慮することなく、ゆっくり過ごせてもらえるよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より、身体拘束0の施設づくりを目指し、実行しており、日々の生活の中でもその弊害についてスタッフ間で話し合い、共同認識を図っている。	○	身体拘束のみでなく、言葉による拘束にも配慮できるよう繰り返し研修を行っていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	動きのある場所にセンサーを設置し、自然な声かけで対応できるようにしている。また落ち着きの無い時は、散歩やドライブで気分転換を図ったり、地域の方々にも声かけして見守りできるようにしている。	○	家に帰りたくなるときは一緒に歩いたり、車でいっしょに家まで行ったり、鍵をかけることへの弊害を十分認識して、日頃のケアに生かしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは声を掛け合い、常に気配りを怠らないようにしている。また転倒の危険性が大きい方には、本人の動きをできるだけ制限しないよう足元にセンサーを設置して、いち早く対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみが使える方は自分で持って頂き、注意して使用していただくように声掛を密に行っている。また針仕事などはスタッフと一緒にいき、針の後始末など管理している。消毒薬など薬品類は誤飲の恐れがないよう管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	万が一事故が起きた時は出来るだけその日のうちに報告書を作成し、スタッフ全員に周知し再発防止策を検討し、即実行に移し防止に努めている。服薬に対しては誤薬のないよう声を掛け合って事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応マニュアルを作成し、緊急時はクリニックに連絡直ぐに対応できている。応急手当などはその都度看護師による指導を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いの下年2回訓練を行い、スタッフで各消防設備が取り扱い出来るようになってきた。推進会議などで地域の方にも内情を説明して、緊急時は協力をもらえるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとり起こりうるリスクについてはその都度家族と話し合い、対応策についても一緒に考え、理解してもらっている。	○	体調によりリスクが変動するので、十分に話し合い一緒に生活を支えていく姿勢を大事にして行きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調に変化があったときは、直ぐに看護婦連絡、医師の指示ももらっている。その旨は申し送りノートを活用し、情報を共有して健康管理に役立てている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬効能書をファイルにして、いつでも効能や注意事項が把握できるようにしている。また新しい薬や変更があったときは必ず説明書で確認するようにしている。	○	不明なときは薬剤師にわかりやすく説明してもらい、連絡帳を使って全職員が情報を共有できるようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤服用時はその副作用を理解し、過剰にならないよう指示をもらいながら多めに水分を摂ったり、腹部マッサージをしたりできるだけ身体を動かすよう努めている。また日頃から便の形状や量に注意を払い、薬だけに頼らない努力をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの能力に応じて口腔ケアを援助している。義歯消毒は毎晩お預かりし、消毒洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフ間で、彩・栄養バランスを考えた食事づくりをしている。形態は咀嚼能力に応じて、お粥やキザミ食を提供している。また毎日の摂取量を記録して健康管理に役立てている。	○	現在、ミキサー食を食べておられる方が居るので、飲み込みの状況など判断しながら、栄養補助食品などの検討を進めている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対応マニュアルを作成し職員の周知を徹底しまた、玄関入り口に注意書きをはり、随所に手指消毒液を配置して、出入りする方全員に協力を呼びかけている。	○	新型インフルエンザ情報に付いては厳重な管理を行い、感染防止に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や冷蔵庫など定期的に掃除や消毒をおこない、食器は日光消毒を行うなど衛生管理に努めている。また季節に応じてなるべく加熱調理したものをお出ししている。	○	一度に買い置きをせず、できるだけ近くで摂れた新鮮な食材を使うようにしている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	周りを田園風景に囲まれ、玄関先に花や木が植えてあり、親しみやすく入りやすいようにしている。また玄関口にベンチを置き、外気浴やおしゃべりが楽しめるようにしている。	○	庭木の手入れが行き届いていないので、環境整備も怠らないようにしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	難聴の方がほとんどであり、テレビの音が大きくなりがちである。ソファの配置や、リクライニング椅子などを配置し、和やかな生活空間・環境作りに努力している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを置いたり、ホールにソファを置いてお一人で過したり、気の合った同士で過せるように工夫するなど、ご利用者各自がお好きな場所でくつろげる様に環境を整える努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に思い出のある品物や家具を持ち込んでもらい、それぞれ使いやすい場所に設置している。また居室内のボードに思い出の写真等を自由に貼ってその人らしい空間ができるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に生活臭に気配りしてよどみのないよう定期的に換気を行い、入居者の希望を摂り入れながら温度管理を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置して各自自立に向けた安全な移動に役立っている。	○	今後浴室内脱衣場に手摺りの設置の要望があり、検討していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者それぞれの居室入り口や椅子に表札やわかりやすい目印を付けたり、トイレがわからない方には、わかりやすい表示をする等工夫を続けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や庭の手入れが行き届いていないが、周辺が畑、田んぼであり季節感が味わえる環境で散策を楽しんでいる。	○	利用者様と一緒に庭木の手入れを定期的に行いたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

年々介護度の高い方が多くなり、最後まで継続した生活を希望される方が増えてきました。本人家族の意向があり、痛みのコントロールができればターミナルケアまで行えるようにしています。また介護現場における接遇マナーの研修会を行い、思いやりを持ってより充実して心地よい生活が送れるよう努力していきたい。